

# 細川コレクション

[別棟展示室、本館二階第1室]

## 〈特集〉細川宏子 —幕末維新时期を生きたお姫さま—

会期 1月8日(木)～  
3月22日(日)

第IV期の特集では、細川家第14代当主である護久に嫁した、鍋島家のお姫さま「宏子」についてご紹介します。宏子は、佐賀藩第10代藩主である鍋島直正の娘として、嘉永4年(1851)に誕生。当時の佐賀藩は西洋の進んだ科学技術を積極的に取り入れ、反射炉を設置するなど、国内有数の技術水準を有していました。そのため、熊本藩からも視察に出かけ、その技術を学んでいます。そのような中、護久と宏子の婚姻は慶応3年(1867)に話がまとまり、翌明治元年に婚礼の儀がとり行われました。その後、宏子は護久との間に三男五女をもうけています。

本展では、婚礼に係ることを記録した古文書や、宏子ゆかりの調度品・衣裳などを展示します。また、宏子が娘の悦子と描いた《猪図》や、《築地反射炉絵図》・《佐賀藩三重津海軍所絵図》といった佐賀藩の活躍を描いた絵画作品なども特別展示します。幕末維新时期を生きたお姫さま「宏子」について、細川家と鍋島家の両側面からとらえてみます。



細川宏子所用《香葉紋梅唐草蒔絵扶箱》  
江戸時代後期(19世紀) 永青文庫所蔵  
※展示期間:1/8-3/22



細川宏子所用《浅葱地御所解文様小袖》  
江戸時代後期(19世紀) 熊本県立美術館所蔵  
※展示期間:1/8-2/8



細川宏子・一条悦子筆《猪図》  
明治～大正時代(19～20世紀) 鍋島報効会所蔵  
※展示期間:2/10-3/22

## 細川コレクション常設

細川コレクションでは、公益財団法人永青文庫の所蔵品を中心に、熊本の歴史・美術や細川家の大名文化を総合的に紹介する展示を行っています。

第IV期の常設展示では、細川家の藩主が用いた甲冑や細川家の大名調度、江戸時代の熊本藩領を描いた《領内名勝図巻》、近代細川家の華やかな雛人形や雛調度を展示します。また、第16代当主・細川護立が収集したコレクションの中から、菱田春草《黒き猫》、《落葉》などを展示します。

菱田春草《黒き猫》 明治43年(1910)  
永青文庫所蔵 熊本県立美術館寄託  
※展示期間:2/17-3/22



菱田春草《落葉》 明治42年(1909) 永青文庫所蔵 熊本県立美術館寄託  
※展示期間:1/8-2/15

## 「永青文庫」 とは?

永青文庫は、江戸時代に肥後熊本の地を治めていた細川家に伝わる美術工芸品や歴史資料等を保存・研究するために設立された公益財団法人です。細川家の「始祖」とされる細川頼有が眠る京都建仁寺の「永源庵」の「永」と、近世細川家の「初代」とされる細川藤孝(幽齋)の旧領・京都西岡の「青龍寺城(勝龍寺城)」から「青」の一字をとり、第16代細川護立氏によって命名・設立されました。当館では、東京の公益財団法人永青文庫が所蔵する様々な美術工芸品や近世屏風、そして近代日本画などを展示できるよう「細川コレクション常設展示室」を設立し、およそ3ヶ月ごとに展示替えを行いながら、永青文庫の名品を常時展示しております。



# 美術館コレクション

[本館二階第2室、第3室]

## 〈特集〉牛島憲之 —ある戦後の“かたち”—

会期 1月8日(木)～  
3月22日(日)

文化勲章を受章した熊本市出身の画家・牛島憲之(1900～1997)は、本県を代表する画家の一人として知られています。彼の画家としての活動は、戦前期から始められたものではありませんが、その画業が高く評価されるようになるのは、主に戦後になってからでした。

戦前期、豊かな色彩感覚により自然風景を描き出していた牛島は、戦後になると、ガスタンクや煙突、工場や橋といった建造物の造型に注目した風景画を相次いで発表します。それらの風景画の多くは、当時の画家が住んでいた東京郊外の日常的な光景に取材したものでした。しかし、個々の作品が制作されたのが、戦災からの復興を遂げてゆく1950年代から60年代であることを踏まえるならば、牛島は“かたち”という視点から、東京郊外における「戦後」の有り様を描こうとしていたと考えることができます。

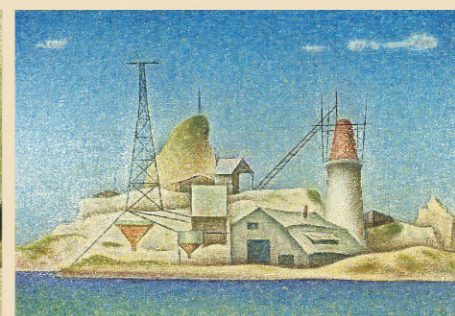
本特集では、当館が所蔵する牛島作品から、主に戦後1950年代から60年代にかけて制作された作品を中心に展示し、彼の視点からとらえた戦後の“かたち”をたどりつつ、牛島芸術の魅力に迫ります。



牛島憲之《まるいタンク》 昭和32年(1957)  
油彩・キャンバス 熊本県立美術館所蔵  
※展示期間:1/8-3/22



牛島憲之《風景》 昭和25～35年頃(1950～1960)  
油彩・キャンバス 熊本県立美術館所蔵  
※展示期間:1/8-3/22



牛島憲之《島の工場》 昭和44年(1969)  
油彩・キャンバス 熊本県立美術館所蔵  
※展示期間:1/8-3/22

## 美術館コレクション常設

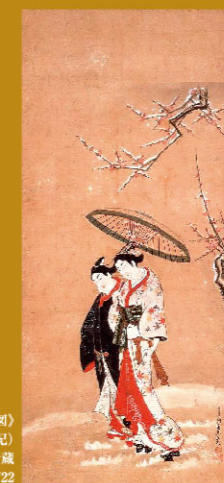
第2室の常設展示では、今西コレクションの浮世絵や御用絵師の作品から、新春にちなんだ絵画を紹介いたします。江戸時代において、お正月や早春をどのように迎えていたのかを、絵画を通して偲びます。このほか、肥後鐔や陶磁器、高野松山・増村益城・平田郷陽らの近代工芸をご紹介します。また、第3室ではルノワール、藤田嗣治(レオナルド・ツグハル・フジタ)、パスキンらのフランス近代絵画の名作を展示します。



増村益城《乾漆朱輪花盤》  
昭和58年(1983) 熊本県立美術館所蔵  
※展示期間:1/8-3/22



石川豊信筆《萬歳図》  
江戸時代中期(18世紀)  
熊本県立美術館所蔵  
※展示期間:1/8-2/15



宮川一笑筆《雪中男女図》  
江戸時代中期(18世紀)  
熊本県立美術館所蔵  
※展示期間:2/17-3/22

## 浜田知明版画室

浜田知明版画室では、熊本市在住の版画家・彫刻家である浜田知明の作品を常設展示しています。今期は、1992年に出版されたオリジナル版画集「小さな版画集」から12点を展示予定です。エッチングのシンプルな線で、様々な人物の姿を描いてあります。当時、作者は74歳。健康も回復して、出身地の御船町に《飛翔》をもとに友人の執行正夫(1926-1992)に依頼していた大理石壁画が完成し、翌年にロンドンの大英博物館の日本ギャラリーでの「浜田知明作品展」開催が決定して準備が始まった、充実した時期に刊行されたオリジナル作品集です。彫刻は、いずれも「小さな版画集」に描かれた人物が登場する1986年の《風景》と《階段を上がる人》です。



浜田知明《女》 平成4年(1992)  
熊本県立美術館所蔵